

〈特集「情報標示の諸要素」〉

情報標示の諸要素:ハンガリー語<sup>1</sup>  
**Markers of information structure in Hungarian**

大島 一  
**Hajime Oshima**

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所  
Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies

**要旨:**本稿は特集「情報表示の諸要素」(『語学研究所論集』第22号,2017,東京外国語大学)に寄与する。本稿の目的は25個のアンケート項目に対するハンガリー語データを与えることである。

**Abstract:** This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘markers of informational structure’ (*Journal of the Institute of Language Research* 22, 2017, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer the Hungarian data for the question of 25 phrases.

**キーワード:** 主語卓越型言語, とりたて表現, 不定表現, 情報のなわ張り

**Keywords:** subject-prominent language, emphasizing expression, indefinite expression, informational territory

### 1. コンサルタント情報

ハンガリー語対応例文の作例は大島が, それをハンガリー語話者コンサルタントに確認した上で記載した。以下, コンサルタントの情報である。

氏名: BILIK Éva (ビリク・エーヴァ)<sup>2</sup>  
性別: 女性  
生年月日: 1971年3月13日  
出身地: ハンガリー, ブダペスト (Hungary, Budapest)  
母語: ハンガリー語ブダペスト方言



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> ハンガリー語は中央ヨーロッパのハンガリーおよび周辺国で話されている言語(ウラル語族フィン・ウゴル語派に属する)であり, 話者数は約1,500万人である。その言語的特徴は膠着語, 後置詞言語であり, 豊富な動詞活用を持つ。特に, 他動詞における対格目的語が定まったものかそうでないかにより活用が変わる不定/定活用(例文グロスでは(φ)/DEF)はハンガリー語の大きな特徴の一つである。

<sup>2</sup> ハンガリー語は日本語と同じく, 「姓・名」の順番で表記する。

## 2. 情報構造に関する言語類型論的／通言語的研究におけるハンガリー語の特徴

まず、ハンガリー語について、特に、情報標示といった概念における「主題」の表現の仕方について説明する。ハンガリー語の情報構造における「主題（トピック）」や「焦点（フォーカス）」を表わす機能は語順が担っている。文頭位置に「主題」要素が置かれ、動詞の直前の位置が「フォーカス」のスロットである（大島, 2016:91）。同時に、その格体系では、主格主語は無標（- $\phi$ ）、対格目的語は - $t$  で表される。したがって、ハンガリー語も日本語と同じく、「主語卓越であり、主題卓越でもある言語」と言える。

各類型の示す特徴について、③「受動構文が主語卓越の言語ではよく用いられる。それに対して、主題卓越の言語では、受動化が現れない」ということに対して、ハンガリー語では日英で見られるような受動構文が存在しない。能動態のまま、語順操作を経ることで、擬似的な受動の意味を実現する（(イ)、(ロ)）。また、動詞の活用を3人称複数形にして、「(不特定多数の誰かが) ～した」が、「～された」という意味としてよく使用される（(ハ)）。

(イ) *Gábor- $\phi$*       *meg-öl-t-e*      *Évá-t*.      【通常の能動文語順】  
 ガーボル-SUB      PRV [完了] -殺す-PST-DEF.3SG      エーヴァ-ACC<sup>3</sup>  
 「ガーボルはエーヴァを殺した」

(ロ) *Évá-t*      *meg-öl-t-e*      *Gábor- $\phi$* . 【擬似受動的な能動文語順】  
 エーヴァ-ACC      PRV [完了] -殺す-PST-DEF.3SG      ガーボル-SUB  
 「エーヴァは、ガーボルが殺した」（≡エーヴァはガーボルに殺された）

(ハ) *El-lop-t-ák*      *a*      *pénztárcá-m-at*.  
 PRV [完了] -盗む-PST-DEF.3PL      the      財布-POSS.1SG-ACC  
 「私の財布が盗まれた」（←「(不特定多数の彼らが) 私の財布を盗んだ」）

⑤「非人称主語における代役主語（It is raining. の it）があるが、主題卓越の言語にはない」であるが、ハンガリー語も以下のとおり、英語における形式主語でもって天候表現を表わすようなことはない。

(ニ) a. *Süt*      *a*      *nap*.  
 照る      the      太陽, 日  
 「日が照っている」  
 b. *Es-ik*      *az*      *eső*.  
 降る-3SG      the      雨  
 「雨が降っている」  
 c. *Hull*      *a*      *hó*.      /      *Havaz-ik*.  
 雪が降る      the      雪      /      雪が降る-3SG  
 「雪が降っている」

<sup>3</sup> グロスに使用する略号は基本的に Leipzig Glossing Rules (<https://www.eva.mpg.de/lingua/pdf/Glossing-Rules.pdf>) に従った。その中に記載のないものは以下。ABL: ablative「奪格」、BE: be verb「存在動詞」、DEF: definitive conjugation「定活用」、DEL: delative「離格」、ESS: essive「様格」、INE: inessive「内格」、POT: potential「可能接辞」、PRPT: present participle「現在分詞」、PRV: preverb「動詞接頭辞」、SUP: superlative「上格」、TER: terminative「到格」

⑥「あらゆる主題卓越の言語は、「魚がおいしい」「私は頭が痛い」のような二重主語文を持つ」について、ハンガリー語も以下のとおり、二重主語文を表わすことが可能である。

(ホ)	<i>Az</i>	<i>elefánt-nak</i>	<i>(pedig)</i>	<i>hosszú</i>	<i>az</i>	<i>ormány-a.</i>
	the	象-DAT	～は	長い	the	鼻-POSS.3SG
	「象は鼻が長い」					

(Fukaya, 1988:34)

### 3. 調査結果

#### 3.1. 主題卓越型類型論の軸項について

【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

(1) 「この土地は野菜がよく育つ。だから高い値段で売れるだろう。」

<i>Ez-en</i>	<i>a</i>	<i>föld-ön</i>	<i>jól</i>	<i>növekszik</i>	<i>a</i>	<i>zöldség.</i>
これ-SUP	the	土地-SUP	よく	育つ-3SG	the	野菜
<i>Ezért</i>	<i>drágán</i>	<i>elad-hat-ó.</i>				
このため	高く	売る-POT-PRPT				

「この土地は」は主題要素とみて、文頭に置かれている (*Ezen a földön* 「この土地に (は)」。また、「売れる」といった自発・可能を意味する表現は、*elad* 「売る」に可能接辞 *-hat/-het* を付けて (*eladhat* 「売ることができる」)、それを現在分詞 (*V-ó/-ő*) 化した *eladható* (「売れている」) で表される<sup>4</sup>。

【話してのなわ張り内・聞き手のなわ張り外、統語的軸項としての機能】

(2) 「私は頭が痛い。だから今日は休む。」

<i>Nek-em</i>	<i>fáj</i>	<i>a</i>	<i>fej-em.</i>	<i>Úgyhogy</i>	<i>ma</i>	<i>pihen-ek.</i>
DAT-1SG	痛む	the	頭-POSS.1SG	だから	今日	休む-1SG

日本語のとおり、「私は (*nekem*)」と、主題要素を付けて言うことができる。ただし、*fej-em* 「頭-私の」とあることから、冗長的な感じがするとのことである。普通は *Fáj a fejem.* 「私の頭が痛い」で充分である。

#### 3.2. とりたて表現について

(3) 「あの人だけ、時間通りに来た。」【限定】

<i>Csak</i>	<i>az</i>	<i>az</i>	<i>ember</i>	<i>jött</i>	<i>pontosan.</i>
だけ	あの	the	人	来る-PST.3SG	時間通りに

ハンガリー語における「とりたて」表現で最もよく使われるものが、この *csak* 「～だけ、まさに」である。後続する名詞 (句) を強調する意味を持つ。

<sup>4</sup> なお、ハンガリー語は母音調和という現象のため、それぞれの母音のグループ、すなわち、後舌母音 (*u, o, a*) / 前舌母音 (*i, e*) / 円唇母音 (*ü, ö*) のグループに応じた異形態を持つ。この可能接辞および現在分詞では、後舌母音グループと、前舌母音および円唇母音グループの対立となる。

(4) 「これはここでしか買えない。」【限定・否定との共起】

<i>Ez</i>	<i>csak</i>	<i>itt</i>	<i>ve-het-ő.</i>
これは	だけ	ここで	買う-POT-PRPT

日本語では「ここでしか買えない」は、ハンガリー語では「ここだけで買える」というほかない。「買える」は(1)で見たものと同様に、動詞 *vesz*「買う」に可能接辞 *-hat/-het* を付けて (*vehet*「買うことができる」)、現在分詞 (*-ó/-ő*) 化した、*vehető* が使われる。

(5) 「その家にいたのは子供ばかりだった。」【限定・多数】

<i>Ab-ban</i>	<i>a</i>	<i>ház-ban</i>	<i>csak</i>	<i>gyerek-ek</i>	<i>vol-t-ak.</i>
あの-INE	the	家-INE	だけ	子ども-PL	BE-PST-PL

*gyerekek*「子供たち」と複数形であっても、*csak*「～だけ」を使うことにより、「子供たちだけ」と、とりたてて表現が可能である。

(6) 「次回こそ、失敗しないようにしよう。」【限定・強調】

<i>Legközelebb</i>	<i>az-t</i>	<i>akar-om,</i>	<i>hogy</i>	<i>ne</i>	<i>buk-j-ak</i>	<i>meg.</i>
近いうちに	あれ-ACC	欲する-DEF.1SG	that	NEG	失敗する-IMP-1SG	PRV [完了]

「次回こそ」という「～こそ」を表わす表現は対応するハンガリー語例には見当たらない。文頭の位置は一般的に「主題(トピック)」要素が占めることから、「次回 (*legközelebb*)は、失敗しないように」と、主題化操作により、意味的に強調できると思われる。

(7) 「疲れたね、お茶でも飲もう。」【反限定・例示】

<i>Jól</i>	<i>el-fárad-t-unk.</i>	<i>Nem</i>	<i>isz-unk</i>	<i>egy</i>	<i>tea-t?</i>
よく	PRV [完了] -疲れる-PST-1PL	NEG	飲む-1PL	1	お茶-ACC

「反限定」としての「お茶でも」は、ハンガリー語では不定冠詞 *egy* が担っていると考えられる。「とりあえず、どれでもいいから一つ」が不定冠詞の意味機能だからである<sup>5</sup>。

<sup>5</sup> 以下の例のとおり、不定冠詞と定冠詞の意味の違いが見られる。たとえば、a では町の通りで、どこでもよいから町のどこかにある不特定多数のトイレを探す時に使われる一方で、b はデパートなら必ずあるトイレを探す時に使用される。

- (i) a. *Hol van egy vécé?*  
どこに be a トイレ  
「(とにかくどこでもよいから一つの) トイレはどこにありますか?」
- b. *Hol van a vécé?*  
どこに be the トイレ  
「(デパートなどで店員に) トイレはどこにありますか?」

(早稲田, 2015:63)

(8) 「水さえあれば、数日間は大丈夫だ。」【極端・意外】

<i>Ha</i>	<i>víz</i>	<i>van,</i>	<i>pár</i>	<i>nap-ig</i>	<i>ki-bír-om.</i>
もし	水	BE	数	日-TER	PRV [完了] -耐える-DEF.1SG

ハンガリー語では、最も強調したい要素（フォーカス）が、動詞の直前の位置に来る。viz「水」が存在動詞 van「ある」の前にあることで、「水さえ」の意味を実現していると考えられる。

(9) 「小さい子供まで、その仕事の手伝いをさせられた。」【極端・意外】

<i>A</i>	<i>kisgyerek-ek-et</i>	<i>is</i>	<i>segít-tet-t-ék</i>	<i>ab-ban</i>	<i>a</i>	<i>munká-ban.</i>
the	小さな子ども-PL-ACC	も	助ける-CAUS-PST-DEF.3PL	あれ-INE	the	仕事-INE

「～まで」といった意外性のある“超過”といったものは、ハンガリー語では is「～も」で表わすことができる。これは名詞（句）の後に置かれる。なお、ハンガリー語文の直訳は、「(彼ら(＝一般不特定多数)は) 小さな子供たちをもその仕事を手伝わせた」と使役形が使われており (segít-tet「手伝わせる」)，その主語を「(彼ら＝一般不特定多数)」とすることで、「子どもたちは手伝いをさせられた」と疑似受け身的な意味を実現する。

(10) 「私はお金なんか欲しくない。」【反極端・低評価】

<i>Én</i>	<i>nem</i>	<i>akar-ok</i>	<i>pénz-t</i>	<i>se.</i>
わたしは	NEG	欲する-1SG	お金-ACC	NEG

上記の is「～も」の否定版が、この se「～も(…ない)」である。これを使うことで、「お金なんか～ない」を表わす。

(11) 「自分の部屋ぐらい、自分できれいにしなさい。」【反極端・最低限】

<i>Legalább</i>	<i>a</i>	<i>saját</i>	<i>szobá-d-at</i>	<i>saját</i>	<i>maga-d-nak</i>
すくなくとも	the	自身の	部屋-POSS.2SG-ACC	自身	自身-POSS.2SG-DAT
<i>kell</i>		<i>takarít-an-od.</i>			
しなければならない		掃除する-INF-2SG			

「自分の部屋ぐらい」といった、特定の名詞（句）の最低限評価を意味させる表現はないが，legalább「少なくとも」で代替することは可能である。

(12) 「私にもちょうだい。」【類似】

<i>Nek-em</i>	<i>is</i>	<i>tessék</i>	<i>ad-ni!</i>
DAT-1SG	も	どうぞ	与える-INF

「私に・も」ということで，nekem is と，日本語と対応して表わすことができる。「ちょうだい」は「与えて下さい (tessék adni)」とした<sup>6</sup>。

<sup>6</sup> tessék V-ni は「～して下さい」として定形的に使用される (V-ni は不定詞形)。tessék は「どうぞ～して下さい」であるが，そもそもは，tetszik「(～が) 気に入る」の命令形定活用 3 人称単数形。動詞不定詞形に，こ

- (13) 「お父さんもう帰って来たね. お母さんは？」【反類似・対比 (疑問)】

<i>Apá-nk</i>	<i>már</i>	<i>haza-jö-tt.</i>	<i>Anyá-nk</i>	<i>még</i>	<i>nem?</i>
父-POSS.1PL	すでに	PRV「家へ」-来る-PST.3SG	母-POSS.1PL	まだ	NEG

「お母さんは？」であるが、「お父さん (apánk)」と同じく、文頭位置に置くことで、対比主題として表現している。

### 3.3. 不定表現について

- (14) 「誰か (が) 電話してきたよ。」【特定既知 (specific known)】

<i>Vála-ki</i>	<i>fel-hív-ott.</i>
INDF-誰	PRV「上へ」-呼ぶ-PST.3SG

ハンガリー語では不定のものは *vala* 「～か」で表わす。人であればこの例のとおり、*valaki* 「誰か」、人以外であれば *valami* 「何か」(*mi* 「何」)となる。これは他の疑問詞にも付けられる。例えば、*valahol* 「どこかに」(*hol* 「どこに」), *valahova* 「どこかへ」(*hova* 「どこへ」), *valahonnan* 「どこかから」(*honnan* 「どこから」), また、*valamilyen* 「なんらかの」(*milyen* 「どのような」)といった具合である。

- (15) 「誰かに聞いてみよう。」【非現実不特定 (irrealis non-specific)】

<i>Kérdez-z-ük</i>	<i>meg</i>	<i>vala-ki-től!</i>
尋ねる-IMP-DEF.1PL	PRV [完了]	INDF-誰-ABL

こちらと同じく *valaki* 「誰か」が使われる。(14)と違い、こちらは知らない人でも誰でも良いから聞いてみるということだが、その「誰か」をハンガリー語では区別していない。

- (16) 「私のいない間に誰か来た？」【疑問 (question)】

<i>Jö-tt</i>	<i>vala-ki,</i>	<i>amíg</i>	<i>nem</i>	<i>vol-t-am?</i>
来る-PST.3SG	INDF-誰	～の間	NEG	BE-PST-1SG

これも *valaki* 「誰か」が使われている。例 (20)で見えるように、ハンガリー語では他の不定代名詞表現として、*akár/bár-* があり、人に対応する形式として、*akárki/bárki* 「誰でも」が存在する。しかしながら、この【疑問 (question)】ではそれらは使われず、このとおり、*valaki* 「誰か」のみである (Haspelmath, 1997:292)。

- (17) 「誰か来たら、私に教えてください。」【条件節内 (conditional)】

<i>Ha</i>	<i>vala-ki/akár-ki/bár-ki</i>	<i>jön,</i>	<i>szól-j-ál</i>	<i>nek-em!</i>
もし	INDF-誰	来る	言う-IMP-2SG	DAT-1SG

このとおり、【条件節内 (conditional)】の例は、「誰でもいいから来たら」ということなので、*valaki* 「誰か」も *akárki/bárki* 「誰でも」、すべて使用することができる (Haspelmath, 1997:292)。

---

の *tessék* (お気に召しませ) を付けることで幅広く敬語表現として定着している (*Tessék jönni.* 「いらっしゃってください (←*jön*「来る」)」など)。

- (18) 「今日は誰も来るとは思わない. /今日は誰も来ないと思う.」【間接 (全部) 否定 (indirect negation)】

<i>Ma</i>	<i>nem</i>	<i>hisz-em,</i>	<i>hogy</i>	<i>jön</i>	<i>vala-ki/akár-ki/bár-ki.</i>	/
今日	NEG	思う-DEF.1SG	that	来る	INDF-誰	
<i>Ma</i>	<i>az-t</i>	<i>hisz-em,</i>	<i>hogy</i>	<i>nem</i>	<i>jön</i>	<i>senki.</i>
今日	あれ-ACC	思う-DEF.1SG	that	NEG	来る	誰も (~ない)

「誰も来るとは思わない」の引用節内は、「誰か来る (jön valaki/akárki/bárki)」という肯定表現であるので，valaki, akárki, bárki どれでも使用可能である (Haspelmath, 1997:292). しかし，「誰も来ないと思う」の「誰も来ない (nem jön senki)」となると，一転して「誰も…ない」の senki が使えないことが分かる.

- (19) 「そこには今誰もいないよ.」【直接 (全部) 否定 (direct negation)】

<i>Ott</i>	<i>most</i>	<i>senki</i>	<i>sincs.</i>
あそこに	いま	誰も	いない

(18)と同様に「誰も…ない」で senki を使うことは変わらない. また，非存在を表わす nincs 「ない」の，「～も (さえ) ない」という意味の sincs を使うことも可能である.

- (20) 「(それは) 誰でもできる.」【自由選択 (free-choice)】

<i>(Az-t)</i>	<i>Bár-ki</i>	<i>tud-ja.</i>
あれ-ACC	～でも誰	できる-DEF.3SG

「誰でも」は，「不定の人なら誰でも」を表わす bárki 「誰でも」が使われるとのことである. 同じ意味で akárki 「誰でも」を使っても良い. ハンガリー語における【自由選択 (free-choice)】を示す一連の表現には，この akár- と bár- が使われる (akárki/bárki 「誰でも」, akármí/bármí 「なんでも」, akárhol/bárhó 「どこでも」など) (Haspelmath, 1997:291).

- (21) 「そんなこと (は)，みんな知っているんじゃないか!?!」【自由選択を示す「みんな」】

<i>Ar-ról</i>	<i>minden-ki</i>	<i>tud,</i>	<i>ugye?</i>
あれ-DEL	すべての誰	知っている	ですよ?

こちらは mindenki 「みんな (minden 「全ての」 - ki 「誰」)」が使用されている. なお，「そんなこと (は)」は arról とあるが，これは az 「あれ」に，離格接尾辞 -ról/-ről 「～の上から」が付いている. この接尾辞はもう一つの意味「～について」としてもよく使われるものである. 文末に ugye? 「～ですよ?」をつけることで，「そのことについては，みんな知っていますよね?」と同意・確認を求める文となる.

- (22) 「そんなもの，誰が買うんだよ!?!，誰も買うわけじゃないか!」【反語】

<i>Olyan</i>	<i>tárgy-at</i>	<i>ki</i>	<i>akar</i>	<i>ven-ni!?</i>
あのような	もの-ACC	誰が	欲する	買う-INF
<i>Lehet-etlen,</i>		<i>hogy</i>	<i>vala-ki</i>	<i>vesz-i!</i>
あり得る-なしの		that	INDF-誰	買う-DEF.3SG

「そんなもの、誰が買うんだよ!?!」と反語を表わす疑問文ということで、実際のハンガリー語文は文末のイントネーションが上昇気味で発音される（通常の疑問文は疑問詞が強く高く発音され、文末に向けて下降していく）。

### 3.4. なわ張り理論について

(23) 「君は英語がうまいね。」【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り内】

<i>Jól</i>	<i>tud-sz</i>	<i>angol-ul.</i>
よく	できる-2SG	英語-ESS

事実描写の「君は英語がうまい」も、「君は英語がうまいね」も、上記のとおり表現する。実際に英語を上手に話していることを見た上での発話であろうから、区別しようがない。あえて言えば、*Azt hiszem, hogy jól tudsz angolul.*と、*azt hiszem, hogy* ～「～だと私は思う」を付け加えても良いだろうが、冗長な感じがする。

(24) 「君は退屈そうだね。」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り内】

<i>Te</i>	<i>pedig</i>	<i>unalmas vagy,</i>	<i>ugye?</i>
君	～といえば	退屈な BE.2SG	ですよ?

こちらは (23)とは異なる。聞き手（相手）の内面の様子は正確にはわかり得ないだろうから（退屈していないかもしれない）、同意をもとめる *ugye?* 「ですよ?」を付ける必要が出てくる。

(25) 「明日も寒いらしいよ。」【話し手のなわ張り外・聞き手のなわ張り外】

<i>Úgy</i>	<i>tűn-ik,</i>	<i>holnap is</i>	<i>hideg lesz.</i>
～のように	～のようである-3SG	明日も	冷たいなる

文末の *lesz* 「なる」は予定調和の確定的な未来を表わすものだが、そうなることが、*úgy tűnik*, ～「～のようである」で、全体を予想するといった意味構造を取っている。

## 4. おわりに

以上、ハンガリー語における「情報標示の諸要素」が関わる例文をみた。ハンガリー語は「主題（トピック）」を文頭位置が担うという語順による主題標示機能を持っていることから、日本語の「～は…が V する」といったものも表現可能であった。また、とりたて表現においては、*csak* 「～だけ」や、*is* 「～も」、また不定冠詞の利用などにより、ある程度、日本語と同程度に表し分けていることが分かる。不定表現については、*valaki* 「誰か」、*valami* 「何か」といった、疑問詞に *vala-* 「～か」が利用できること、また、*sem* 「何も～ない」、*senki* 「誰も～ない」、*semmi* 「何も～ない」、*akárki/bárki* 「誰でも」といったように、日本語例にうまく対応できる要素が存在する。最後に、なわ張り理論についてだが、例 (23)にある「話し手も聞き手も内」では、日本語は同意・共感を求めるような「～ね」が使われるのに対し、対応するハンガリー語は無標の直接形のままであった。結論として、ハンガリー語は全体的に日本語例文と似たような方策でこれらの諸要素を表わすことができる言語であると言える。



#### 参考文献

- 大島 一. 2016. 「情報構造と名詞述語文：ハンガリー語」『語学研究所論集』vol.21:91-100, 東京外国語大学語学研究所.
- 早稲田みか. 2015. 「対照研究で読み解く日本語の世界⑩ ハンガリー語における定・不定の概念と日本語」, 「日本語学」, vol.34-3, 明治書院.
- Fukaya, Shitoshi. 1988. “A functional analysis of topic-comment structure of Hungarian - contrasted with Japanese”, Hidasi (ed.) *Contrastive studies Hungarian-Japanese*, Akadémiai kiadó, Budapest.
- Haspelmath, Martin 1997. *Indefinite Pronouns*. Oxford: Oxford University Press.
- Kenesei, István, Robert M. Vago, and Anna Fenyevesi. 1998. *Hungarian: Descriptive Grammars*, Routledge.
- Kiss, É. Katalin. 2002. *The Syntax of Hungarian*, Cambridge University Press.

執筆者連絡先: [hazsime@gmail.com](mailto:hazsime@gmail.com)